



宇部市・山陽小野田市水道事業広域化検討委員会 第9回会議までの検討状況



上下水道局
水道広域推進室

宇部市 山陽小野田市 水道事業広域化検討に係る経緯

平成25年
(2013年)4月

将来的な広域化を視野に入れて調査研究することで両市の水道事業管理者の意向が一致

平成25年
(2013年)7月

両市の中堅職員各4名で構成する水道事業広域化研究会を設置

平成26年
(2014年)7月

水道事業広域化研究会が「水道事業広域化研究会報告書(最終報告)」を両市の管理者に提出

平成27年
(2015年)2月

両市の市長による意見交換により水道事業広域化の方針で意見が一致

平成27年
(2015年)6月

宇部市・山陽小野田市水道事業広域化検討委員会第1回会議開催

水道事業の現状 (両市共通)

人口減少等



水需要減少



料金収入減少

施設・管路の
老朽化対策



施設・管路の
耐震化対策



施設・管路の
ダウンサイジング

投資的経費

職員数の
減少



職員の高齢化



技術継承の
不安

広域連携のメリット

☞ヒト(人材)

- ・事務の共同処理による組織のスリム化
- ・専門的な知識をもつ職員の確保
- ・災害・事故等の緊急時対応力強化等

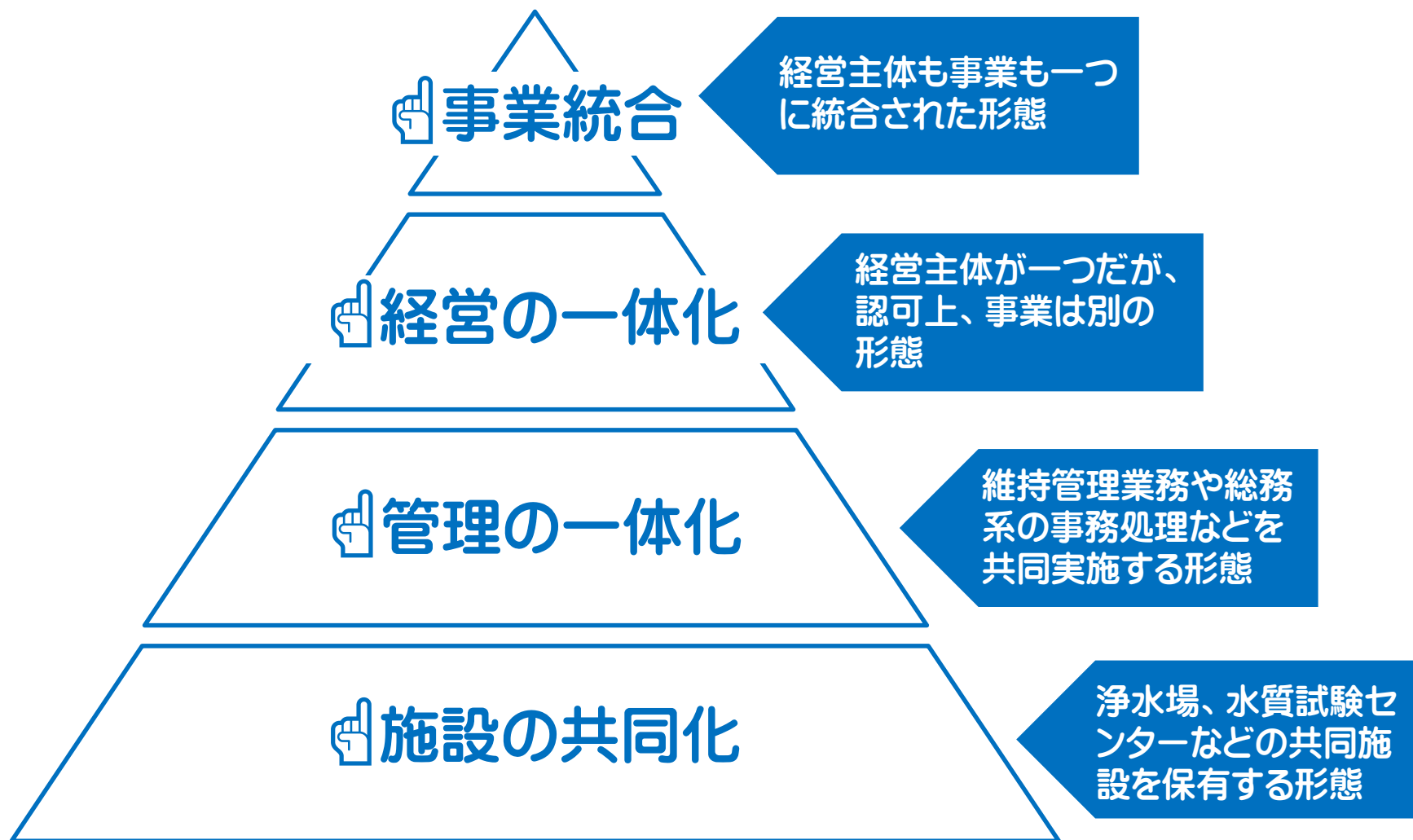
☞モノ(施設)

- ・施設規模の拡大によるスケールメリット
- ・施設の統廃合による、二重投資の回避
- ・弾力的な水運用による危機管理能力の向上

☞カネ(資金)

- ・経営規模の拡大による資金の弾力的な運用
- ・地域全体における費用の縮減
- ・国の交付金・交付税などの活用

水道事業広域化の形態(参考)



検討委員会中間報告

平成28年(2016年)3月

- 👉 浄水場再編に伴う施設整備事業費の削減ができ、ケース別に両市が個別に事業する場合に比べて、約1億8千万円から12億円の効果を得ることができる。
- 👉 浄水場再編による効率化により、再編後のランニングコストと次期更新事業費の圧縮効果が得られる。
- 👉 業務等の効率化により、収益的支出の削減効果が生じ、経営の一体化以上のレベルでは年間約1億2千万円 + α の効果を得られる。それ未満のレベルでは効果額は半分未満となる。
- 👉 将来に向けた水道料金の改定率の抑制が期待できる。
- 👉 計画的な人材育成や災害時の要員確保及び応急資機材の充実等を図ることが可能となる。

現時点での合意内容

検討委員会第9回会議 2019.8.5

👉 広域化の形態

経営の一体化

水道事業認可、水道料金、財務会計等の事務事業や制度等、宇部市と山陽小野田市で別々に管理



事業統合

水道事業認可、水道料金、財務会計等をすべて統合
⇒事業統合と同時に宇部市の水道料金に統一

👉 浄水場再編計画

宇部市

山陽小野田市

広瀬浄水場

中山浄水場

高天原浄水場

鴨庄浄水場

厚東川水系

厚狭川水系

最終的に広瀬浄水場に浄水機能を集約し、高天原浄水場、中山浄水場、広瀬1系2系を段階的に廃止する

水道事業広域化の推進

👉 水道広域推進室の設置 (2019年4月)
宇部市・山陽小野田市の職員で構成
水道事業広域化に関する庶務を担当

連携

報告・審議

👉 検討委員会専門部会の設置 (2019年4月)
総務系・営業系・工務系・浄水系の専門
分野における事務事業共同化の調整を担う

宇部市・山陽小野田市
水道事業広域化検討委員会

今後の予定

